

審査の結果の要旨

氏名 岡本千草

論文題目： *Essays in Empirical Urban Economics*
(実証都市経済学に関する研究)

本博士論文は、三つの章で構成されている。第1章は生産技術が都市間の経済活動分布に与える影響、第2章は高速鉄道が都市間の経済活動分布に与える影響、第3章は単身者用の小規模住宅が都市内の経済活動分布に与える影響についての研究であり、計量経済学的手法を駆使した実証分析を通じて、どのようなメカニズムで経済活動分布に影響を及ぼしているかについて明らかにしている。

第1章は、“The effect of automation levels on US interstate migration” の題目であり、2019年に国際学術誌 *Annals of Regional Science* に掲載されている。この章では、生産技術が向上したことが都市間の経済活動分布に与えた影響を分析している。技術進歩とともに生産がオートメーション化してきたことによって、どのような能力を持った労働者が大都市に移動したかについて、アメリカの個票データを用いて詳細な実証分析をしている。高技能労働者の知識創造とスピルオーバーが都市・地域経済に影響を及ぼしつつ、都市間の人口移動を行うことを計量的に調べるとともに、さまざまな技術を持った労働者の社会厚生分析を通じて、興味深い都市・地域政策の含意を導き出している。これは国際競争力のある研究であって、今後さらなる発展に注目したい。

第2章は、“Impacts of high-speed rail construction on urban agglomerations: Evidence from Kyushu in Japan” の題目であり、東京大学佐藤泰裕教授との共著であり、2018年に *CIRJE Discussion Paper* として公表している。九州新幹線の開通が九州の諸都市の経済集積に与える影響を *difference in differences* 分析を用いて、計量経済学的に分析している。九州新幹線の開通によって、周辺地域の地価を変化させることによって、経済活

動の分布が影響を受けるメカニズムを明らかにしている。また、都市の規模の違いや九州新幹線からの距離の違いによって、その影響が大きく異なることを見出している。特に、規模が大きい都市では地価が上昇するのに対して、小さい都市では下落するといった興味深く意義深い結果を得ている。この研究は、海外の学術誌に投稿中である。

第3章は、“Neighborhood externalities from “one-room apartments”” の題目であり、学術論文の形にまとめ、海外国際誌に投稿しようとしているところである。ここでは、単身者用の住宅が周辺の住宅に及ぼす外部性を分析している。具体的には、ワンルームマンションが近隣の住宅に及ぼす外部性を東京都の住宅家賃と販売価格のデータを用いて、最新の計量経済学的手法を駆使しつつ、外部性を計量的に分析している。精緻かつ論理的な分析によって、ワンルームマンションに近接する住宅の価格、同一マンション内にある住宅の価格、同一マンションの同一フロアにある住宅の価格、いずれも負の影響を与えることを実証的に示している。経済学的解釈は大変興味深く示唆に富む。それゆえ、近隣外部性によって生じる市場の失敗を防ぐ都市政策の策定に資するものと考えられる。

博士論文審査の過程では、さまざまな観点から多くの議論があり、いくつか重要な指摘があった。たとえば、第1章では産業構造の違いについて、人口移動要因について、第2章では地価以外のデータの利用可能性について、新幹線の部分開通の影響について、**treatment group** と **control group** の分け方について、第3章ではワンルームマンションの建物内シェアについて、外部性が発生するメカニズムについて、などさまざまな建設的な意見が出された。それらの指摘を踏まえて改訂されたものが提出された博士論文である。

この論文は実証都市経済学において十分に貢献していると考えられるのみならず、研究者として独り立ちするという意味で資質が十分であることを示していると判断できる。

最後に、この博士論文を通じて剽窃等が一切ないことは、iThenticate のソフトウェアによって確認済みである。

よって本論文は博士（経済学）の学位請求論文として合格と認められる。

令和2年1月16日

審査委員：田淵隆俊（主査）

佐藤泰裕

高橋孝明

中川万理子

中島賢太郎